

いのけん 広島 だよ

発行責任者 青木 克明
編集責任者 重村 幸司
電話 082-262-1550
FAX 082-261-5059



バスの中でも楽しく交流

全体では一三〇人以上
六月五日・六日と高松市において、働くものの命と健康を守る中四国ブロックセミナーが開かれました。全体では一三〇人余りがつどい学びました。広島からは二六人が参加しました。**好評だった基調講演**
第一基調講演は、**大槻久美子さん**による「メンタルからの職場復帰」でした。大槻さん自身が現職の時、長時間労働で心身を病み、その経験を活かした講演で、

とても説得力がありました。多くの参加者が「新しい発見があった」と語っていました。**第二基調講演は、村上剛志さん**による「夜勤・交代労働の有害性と労働法制の課題」でした。夜勤勤務がいかに有害であるか？そして、世界ではどのような規制が行なわれているのか？あまりにもひどすぎる日本の労働条件の改善が必要だという事を力説しました。とりわけILO一八七号条約を活かした取組みを大いに進めていこうと訴えました。二日目は五つの分科会に分かれて討議・交流をしました。広島センターの**大山泰弘さん**は、第一分科会で、安全衛生の基礎知識の講義を行ないました。

大いに語り合った懇親会



心身のリフレッシュも
二六人中二四人はマイクロバスによる参加でした。バスの利点を生かして美しい風景も楽しみました。最初の日は、名園・栗林公園を訪ねました。ガイドによって、園内の有名な松などの説明を受けました。**幸佐さん**は「三回目だが、説明を聞いて歩くのは発見もありとても楽しかった」と語っていました。夕食は懇親会で各地方との交流をしました。

セミナーの全日程が終了後、源平合戦の大舞台となった屋島を訪ねました。頂上から見る瀬戸内海のも多島美は素晴らしく、青木会長はさっそくスケッチし、風景を記録しました。参加者は美しい風景を観ながら弁当を広げました。**安徳さん**は「非常に勉強になった。また美しい風景も観て命の洗濯もした」と語りました。**(感想)**
玉谷さんは「メンタルと夜勤勤務の両方に興味があつた。二つが深く結びついていける事が分かった」
煙崎さんは「ディーセントワークや国際基準を活かしてがんばりたい」
中野さんは「夜勤は避けられないが少しでも改善していきたい」
青木会長は「来年は原発問題もテーマにして欲しい」

第2回中四国ブロックセミナー 一六人が学びびとリフレッシュ

